

2002年2月7日

西村（愛知県在住）

新・生物多様性国家戦略骨子案(事務局案)の説明資料についての意見を申し述べさせてもらいます。

身も弁えず小生のような者が発する無礼をお許してください。

以下、日本の淡水魚に関する要望を恐れながら記させてもらいます。

#### 第1部 第4節 2 (1) について

絶滅危惧種の選定し生息・生育状況を把握することは極めて重要かつ必然的なことだと言えます。その際に資料公開が過去の事例から考えて一般的だと予想します。また公開された資料には具体的な場所が記されている場合が少なくありません。ここで指摘させてもらう点は、生息地公開による更なる絶滅危惧種の増大です。メダカが絶滅危惧種に指定され、その効果として自然への関心は高まったと言えます。その半面で淡水魚の商品としての価値が上がり、淡水魚飼育を目的とした営利事業者が統計的なデータはありませんが増えている印象です。そうした最中に絶滅危惧種や商品価値の高い人気種の生息地を、誰でも確認できる媒体に公開することは、非常に危険な行為と言わざるを得ません。公開情報を頼りに営利目的の採集者などに乱獲される可能性があります。これは避けて頂きたいです。過去に書籍による公開によって乱獲され、淡水魚の採集禁止という乱獲対策が講じられている場所も現存します。こうした対策が取られている場所は僅かであります。生息状況の把握は行うべきですが、公開には極めて慎重な姿勢を望みます。

#### 第3部 第3節 5 (5) について

初頭教育において移入種問題を考察することが望ましいと考えます。最も効果的な予防対策であるのは述べるまでもなく、移入種の早期発見や駆除管理に関して、大人よりも動きが取り易い点に置いても実態把握や実行力があると思われれます。自然保護の名の基に生物多様性を無視した淡水魚の放流が後を絶ちません。これは放流という行為に抵抗感が少ないからだと言えます。子供は大人よりも生物に関心がありますし、遊んだり出会う機会が多くあります。放流とは年齢に関係なく行うことが出来る行為です。子供達が放流行為に良識を持たず、その行為を実行し続けた場合に、極めて危険な状況が予想できます。外来

種のおオクチバスなどは池から池へと放たれているようです。今年も小学校ぐるみで外来種のカダヤシを放流しているという情報を小生は得ています。更に問題なのはメダカに代表される遺伝的攪乱も子供の頃から学校教育として一部の学校では公然と行われています。移入種は完全な駆除は極めて困難で成功例にも乏しく、そうした中で最も重要な予防対策は全年齢的な啓蒙が不可欠です。特に将来を担う子供達には、放流行為を体験させるという誤った活動は、更なる移入種やその問題を増やすことに繋がります。ブラックバスやブルーギルの放流が各都道府県による内水面漁業調整規則などによって規制されておりますが、他の魚の移植放流は全くと言って良いほど規制がありません。これは移入種を問題視する際に法律的な規制が無く、移入種を意図的に放している団体や人に対しても何ら策を講じることは出来ません。一般には善意の放流は良き事と考えられており、そうした考えに基づき放たれ増える一方の移入種対策として、早期に更なる問題の啓蒙と法律面の強化も視野にご検討下さることを願います。

取り越し苦労であれば良いのですが、僭越ながらご留意頂けると幸いです。益々のご発展とより良い方向を心よりお祈りいたします。最後までお付き合い下さり、ありがとうございました。